

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500660		
法人名	社会福祉法人 暖家		
事業所名	グループホーム 私の部屋		
所在地	各務原市須衛町3丁目151番地 (電 話) 058-370-1200		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター ビーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル2階		
訪問調査日	平成19年4月12日	評価確定日	平成19年5月26日

【情報提供票より】 (19年3月25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 4月 1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	24 人	常勤	17 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 19人

(2) 建物概要

建物構造	耐震鉄骨・筋 造り		
	3 階建ての 1 ~ 3 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	5,000~ 円
敷 金	有 (円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要 (3月 28日現在)

利用者人数	27 名	男性	3 名	女性	24 名
要介護1		要介護2	3		
要介護3	10	要介護4	6		
要介護5	6	要支援2	2申請中		
年齢	平均 84.4 歳	最低	66 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	特定医療法人 鶴沼中央クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな場所にある耐震3階建てのホームは、景観が素晴らしく、居ながら季節を感じる快適空間がある。併設された系列の老健・ケアハウスとの緊密なバックアップ体制のもと、利用者・職員共に安心と安らぎのある暮らしが体现されている。開設以来、管理者・職員の顔ぶれも定着しており、馴染みの関係が保たれ、穏かで和やかな暮らしが営まれている。また、終末期の看取りに取り組み、医師・看護師との24時間体制のもと、家族からの十分な理解と協力、信頼が得られている。管理者・スタッフ共にサービスの質の向上に熱意を持って取り組んでおり、今後も、人材の定着と質を保持しながら、更なる質の高いケアに向けた取り組みが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	法人発行の広報紙のほか、ホーム独自の便りを発行し、地域に向けたホームの役割の理解を深めるための取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	3ユニットそれぞれが、画一的ではなく独自性を高めるための自己評価となっている。職員全員で自己評価を行い、日々のケアの確認と、今後の課題について話し合われている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議での議題は、グループホームの役割と認知症の理解について提起し、ホームの改善点や、ヒヤリ・ハットの取り組みについても討議し、参加者の理解を得ながらホームの運営に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の機会が多く、対話による意見を聴く場を設定している。また、年2回の無記名のアンケートの実施、ふれあい箱の設置、家族会での要望などを把握検討し、ホームの運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域が行う森林ウオーキングや地域清掃活動に参加している。また、地区の町内会長・区長・民生委員・家族代表が参加する運営推進会議で地域との連携を図っている。日常的には、系列の老健・ケアハウスとの交流を通じ、同施設の行うイベント参加など身近なところで、連携への取り組みが行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、グループホーム独自の地域密着型サービスに向けた、利用者本位の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	第2火曜日に行うケアカンファレンスや法人内学習会で理念の共有をはかり、サービス目標に取り入れ、日々の暮らしの中で取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の主催する森林ウォークラリーに参加したり、散歩コースでの清掃ボランティアの人への挨拶、お茶の接待、資源回収への協力や、地元の季節行事にも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、事業者自らの改善を促すものと理解し、具体的な改善目標を毎月2項目を掲げ、全体ケア会議の中で検討し、改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、認知症の理解やヒヤリ・ハットへの取り組みなどの意見交換が行われ、サービス向上に活かされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症予防教室・筋力低下訓練教室を市と連携しながら法人全体で取り組んでいる。市には、法人のサービスの取り組み内容及び広報などの情報を随時提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月間予定表を家族に提示し、面会時に生活の様子を伝えている。小口現金は月末締めの詳細を家族に確認してもらい、署名を頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族アンケート調査を実施し、結果を、活動報告書にまとめ、家族会でも意見を集約し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者・職員の異動・離職が少なく、馴染みの関係が維持されている。職員の頑張りだけではなく、組織のバックアップ体制が十分あるので、職員は安心感を持って業務を行なう事が出来る。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に新人研修会の制度があり、育成マニュアルが用意されている。外部研修にも積極的に参加し、研修資料の共有が図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	母体法人は複数のグループホームを持っており、系列内のグループホームとの交流が行われているが、同業他者との相互訪問は行われていない。但し、同業者からの見学受入れは常時行われ、意見交換しながら、良い取り組みがあれば、取り入れるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が新しい生活環境に馴染んでもらうために、本人のペースを尊重し、最初の1~2ヶ月間はあせらず、ゆっくりした支援に努め、他の利用者との関係づくりにも十分配慮した取り組みがされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の趣味や得意なものを、職員と一緒に会話をしながら行う場面を作り、その都度、利用者から学ぶ気持ちと、感謝の気持ちを伝えている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から本人の情報を収集したり、日々の生活の中で把握した特徴を記録して、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全員参加のケア会議で課題を検討し、家族とも相談しながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月毎との見直しを行っているが、状態の変化などの状況に合わせ、本人・家族の要望を踏まえた見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイの受け入れ、訪問看護の24時間体制や看取りの取り組みを支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者は、法人系列の医療機関で受診対応されているが、家族の希望する医療機関とも連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療との連携体制が整っており、家族の理解と協力を得ながら終末期に取り組み、すでにその実績を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄時や生活場面での言葉かけには、誇りを傷つけない対応を全職員が十分配慮して取り組んでいる。また、法人内の勉強会で、広く個人情報についても意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課の流れはあるが、食事・入浴・散歩・家事手伝いなどでは、個別性を十分尊重し、個々のペースに添った過ごし方を支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と共に、調理の準備や盛り付け配膳し、味加減など話題にしながら楽しい食事を支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂好きの人は、毎日でも入って頂いているが、嫌いな人には、時間とタイミングを見極め支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	園芸や水やり、漬物作り、裁縫、掃除など得意なことをやって頂いている。散歩・買い物・喫茶店など外出の機会も支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にもよるが、毎日散歩に出掛けている。散歩コースは施設南下方にあり、それぞれのユニットから窓越しに楽しい散歩風景が見えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は安全のため、施錠してある時もあるが、ドアと内障子の二重構造で工夫され、障子を開閉すると鈴が鳴り、職員がすぐに対処し、いつでも一緒に外出することが出来る。ベランダや外庭へは自由に出入り出来、閉塞感は少ない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対応マニュアルがあり、消防署の協力を得て、年2回の訓練を実施している。運営推進会議でも協力を働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事カルテで管理され、個々の特徴や、食事・水分摂取量を把握している。栄養バランス、カロリーなどは、系列法人の管理栄養士から指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南に面した広い居間には柔らかい陽光が入り、四季折々の景色が眺められ、季節を感じることが出来る。各居室にはトイレが設置され快適な居住空間となっている。また、広々としたベランダには、季節の草花のプランタや植木があり、利用者が水やりして楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や小物類、本人の趣味の作品、家族の写真が飾られている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。